第３回　経営部会　議事録

開催場所　めむろーど３階　レファレンス

開催日時　令和２年２月７日（金）14:00～15:30

参加者　　坂東部会長、大友副部会長、桑田部会員、田島部会員、土屋部会員、出口部会員、寺町部会員、水野部会員

事務局　　佐々木課長補佐、池田係長、平手主任、上本主事

＜部会長挨拶＞

坂東部会長

＜議件＞

事務局説明　池田係長

・前回の部会の議事録を確認（太字部分）

・前回の部会の意見を反映させた計画素案（資料１）について説明

＜意見交換＞敬称略

部会長　前回欠席の方から意見があればお願いします。

水野　　労働力の不足、高収益作物は手間が掛かるという問題からは逃げられない。解決するには、外部委託か、外国人を雇用するかのどちらかになるかと思う。農家が人を雇用する時代は目の前まで来ていると思う。雇用する状態に見合った経済状態になっていれば良い。

土屋　　前回の部会長の意見で、「経営感覚を身につける機会がない」というのがあった。本来は自ら学ぶべきものだが、子供の時から経営を学べると良いと思う。**子供の時から経営が身近な存在であると、将来役立つことが多いと思う**。

部会長　前回の部会では一般企業の管理職になった時にそう言った研修があるということで紹介した。

田島　　経営面は当然身につけているものと思っており、前回の部会でそのことを聞いた

時驚いた。親と子の会話で経営に関する話題はないのか。

寺町　　自分の家の経営の話を親から子に話すことはまずない。肌で感じろという職人気質な世界である。

部会長　農業はマニュアル化できないことが多く、経営に関する引継ぎをしているかどうかは農家ごとに差があると思う。

部会長　計画素案の審議に移りたいと思う。議案に追加、修正の意見があれば伺いたい。

　　　　前回の部会で、副部会長から利子補給よりも別の方法で支援をお願いしたいと意見があったが、行政としては一度制度を無くしてしまうと復活させにくい部分がある。利子補給は記載したままで良いと思う。

水野　　農業者の皆さんが今よりも農業がやりやすくするには何が一番問題なのか確認したい。そこが明らかになると議論がしやすいと思う。

寺町　　今後は、大規模で省力化で経営する人、限られた面積で経営していく人に二極化していくと思う。問題点は一概に言及できない。

部会長　労働力不足の問題では、大規模農家は、通年雇用が可能だが、中小規模の農家は、

通年雇用できないことが課題であるかと思う。

水野　　農水省のプレスリリースを見ると大規模農家だけでなく、家族経営に目を向けて

きているように感じる。

寺町　　風評被害で作っていた作物が急に売れなくなってしまうのではないかと思うと怖い。

水野　　風評被害を軽減するための手法として、GAP、HACCPなどがある。日本は食の安全に関するモラルが高い。GAP、HACCPの取得によりブランド力を強化できれば良い。

部会長　東京オリンピックに使用する農畜産物はGAPを取得して当然という国の流れがあ

る。GAPや、HACCPの取得にコストがかかる。取得するために無理をすること

は本末転倒ではないかと思う。

土屋　　将来的に自分が大規模農家になるとしたら、畑の管理が行き届かなくなる不安がある。畑の面積が大きくても管理しやすいように、アメダスの気温、降水量から、病気になりやすい時期、薬剤をAIが教えてくれたら品質の安定に繋がる。また、作物や経営のアドバイスをAIがしてくれたら助かる。

部会長　天気予報の精度を高めてほしい。地域ごとの特徴まで教えてもらえると助かる。

他に気になることとしては、親世代が農作業が出来なくなり、後継者世代だけで作業している農家の、畑のふちの雑草が気になる。人手不足がそういう部分に出てきていると思う。忙しくて手が回らない農家が多いのではないか。昔は雑草があれば指をさされた。

大友　　**ICTに関する意見が多く出ているため、課題（３）の取組に追加してもよいのではないか。**

**また課題（３）施策の方向の「また、」以降の部分がわかりづらい。**

事務局　文言を事務局で修正させてもらう。

田島　　現在はどのように人手を確保しているのか。

部会長　インターネットで登録している人にスポット的に農作業を依頼する仕組みが最近始まった。

寺町　　農作業を依頼したい時期が重なる傾向にある。また、天気が悪い日には急に農作業を中止することもある。農家よりも登録者の立場が強く、作業できる人とできない人の差が大きいという課題もある。

部会長　農作業は専門的な仕事なので、依頼をして人を使うのに疲れてしまう人もいる。複数人での作業なので一人だけ遅いと進まないということもある。

事務局　経営に関する意見だけではなく、農業全般について幅広く意見をいただければと思う。他の部会に関わる意見であっても、計画に反映させたいと思う。

寺町　　父が自分の年齢の頃は、こんなに忙しかっただろうかと思う。冬でもすごく忙しい。

部会長　意外と冬が忙しい。夏の作業は自分の農場で完結するが、冬は各所に行く必要があり忙しい。

気候が今後どうなっていくかがわからない。**土地改良事業は先手先手をお願いしたい。芽室は先進的だと思うが、事業を一回やって終わりではない。最近は局所的に大量の雨が降る。整備の基準を見直してほしい**。

寺町　　**他の地域に比べたら暗渠事業も灌水事業もよくやっていると思うが、補修整備もしっかり考えて進めてほしい。**

部会長　**行政と農家の意識のギャップはよくあることだと思う。理解しあえるような方策があると良い。**今後の国が進めようとしている事業のニュアンスはどうなのか。

水野　　農家戸数の減少により、限界集落が増えている。そのことにより地域内で機械を共有することが難しくなっている。今後は一戸完結型の農業が増えることを見越して施策が変わったのではないか。今後は高収益作物を少ない面積でやりくりする人と大規模化する人に二極化すると思う。

寺町　　野菜が安値で安定しているという報道があった。新聞報道も良し悪しがある。

部会長　スーパーは野菜の価格が上がると安い輸入品に頼る。

寺町　　情報にすごく踊らされる。

部会長　自分たちで発信していかないといけない。

事務局　少雪の影響はどうか。

部会長　凍結深度は深いところで50センチあり、去年よりも深い。根ものへの影響が懸念される。小麦は12月に雨が降り、その後土が凍ったがその影響は春にならないとわからない。気候変動の影響を考えなければならない。十勝中央部は猛暑の影響を受けており、品種、作物の選定を今後どう進めていくかが課題となる。

水野　　今年の１月に少雪に関する緊急対策会議があった。去年は小麦が凍害を受け、白くなり収量が減少した。しかし、技術的に解決策がないのが現状である。20～30年前に比べると北海道で葉物野菜が普及してきており、ぶどうの面積の増加がしているなど変化してきている。対策をすれば、温暖化は悪いことばかりではないと思う。

土屋　　夏の温暖化は感じるが、少雪は今後も続くのだろうか。

大友　　２年続いているだけではないか。

寺町　　気候は自分たちで対応していくしかない。

部会長　国のワンストップ窓口は十勝で機能しているのか。

水野　　活用して支援しなさいと国から言われているが、L資金、認定農業者はこの制度を使っているので、機能しているということになる。ワンストップ窓口は設置することになっている。芽室は全道の中でも担い手の充足率が高い。一家に一人でなく兄弟でという場合もある。

寺町　　昔は分家をよく聞いたが、最近は法人化が主流である。

水野　　それだけ所得があるということだと思う。

部会長　**法人化の流れもあり、経営相談に対するニーズは高まっていくと思う。**

水野　　昔の農家は冬に余裕があったが、最近の若い農家は経営意識が高く、時間があるときに何かしなければいけないと考える人が多い。

寺町　　道外に研修に行く人もいる。

土屋　　農家の女性の冬の過ごし方はどうか。

出口　　家庭により異なる。親が一緒だと家にいて介護をしたり、アルバイトをする人もい

る。

寺町　　女性は昔も今も忙しい。子育てが終わったら親の介護がある。

出口　　ひまわりとかりらくとか、昔より高齢者が出掛けられる場所はあるが、りらくは希望者が多数おり、入りづらいという話も聞く。

部会長　家のことで農作業があまりできないのであれば、経営に関わってくる。

桑田　　仕事しながら育児し、介護し、その二つが終わったころには自分の体にガタが来る。男性の理解は昔よりは増えていると感じる。高齢者も柏樹学園など外に出る機会がある。冬の過ごし方をどうしたらよいか、場を設けてあげるといいのではないか。

部会長　終了時間が近づいてきたが、事務局から何かあるか。

事務局　町の施策、事業でこんなものがあったらいいなどあれば言っていただきたい。

部会長　昔、町職員の農業研修があった。農林課の職員が仕事をする上で、どれだけ現場を理解し、どれだけ農家の顔を知っているかというのは大事な部分だと思う。現場とパイプができる良い機会になると思う。

事務局　実際に体験したが、体験することで職員として認識してもらうことができたと思

う。

水野　　普及センターでは新人職員は３か月間、農業研修を行う。非農家の職員も多く入ってきていることからこのような研修は重要であると思う。

大友　　**計画素案について、畑作、酪農で分けているが文言はほとんど同じである。哺育育成施設、家畜ふん尿処理施設以外、ICTや省力化などは同じなので、区別しなくてもよいのではないか。**

部会長　畑作と酪農でやることは違うが、経営という側面では大部分が同じなのかもしれない。

事務局　畑作と酪農で異なる意見があることを想定していたため、検討項目の分野を分けたが、共通部分は合わせるものとし、特記事項は分けていきたいと思う。

＜その他＞

事務局説明　資料２の確認

事務局　第１回会議で営農改善計画も入れていこうかという話もあったが、中長期には馴染まないという話になり、改めて整理したものを示させていただいた。

事務局　３月に部会、４月に委員会の予定だったが、今回で大きな修正が無ければ３月に開催せず４月の委員会に進んでも良いと思うがどうか。

大友　　わざわざ開かなくてもいいのではないか。

部会長　改めて集まるのも大変なので何かあれば部会長、副部会長、または事務局に連絡してほしい。

＜閉会＞

以上